

**平成30年度  
王滝村総合戦略評価報告書**

**王滝村総合戦略会議  
平成30年6月18日**

# 目 次

I 「王滝村総合戦略」の評価について	1
1 趣旨	1
2 王滝村総合戦略の進捗状況の概要	1
(1) 基本目標の進捗状況	1
(2) 重要業績評価指標（KPI）の進捗状況	2
II 各指標の進捗状況	3
1 【くらし】	
(1) 美しい山林と水源地としての清流の景観維持	3
(2) 火山災害をはじめ安全安心な災害対策	6
(3) 安全なくらし	8
2 【移住・交流】	
(1) 幸せを感じる村づくりによる移住促進	13
(2) 下流域地域など交流の一層の充実	15
3 【産業】	
(1) 観光資源の活用による地域振興	17
(2) 自然エネルギーの活用による雇用創出	21
(3) 地域に根ざした産業の振興	23
4 【子育て・福祉】	
(1) 子育てにやさしい村づくり	26
(2) 教育環境の充実	28
(3) 高齢者が安心して過ごせる村	30
(4) 生きがいをもって暮らせる村	33
5 王滝村総合戦略に含まない施策（長期振興計画にのみ記載）	35

## I 「王滝村総合戦略」の評価について

### 1 趣旨

「王滝村総合戦略」を着実に推進するため、その進捗について評価し、今後の施策や事業の改善に活用します。

基本目標（数値目標）及び重要業績評価指標（KPI）の進捗状況を客観的に把握し、外部の視点も確保して評価を行い、村民に公表します。

### 2 王滝村総合戦略の進捗状況の概要

王滝村総合戦略の3年目である平成29年度の施策に係る基本目標（数値目標）及び重要業績評価指標（KPI）の進捗状況の概要は以下のとおりです。

#### (1) 基本目標の進捗状況

5つの基本目標に掲げた6つの数値目標について、計画最終年度である平成31年度の目標達成に向けた進捗状況を「順調」、「概ね順調」、「努力を要する」の3段階で評価しました。

その結果、6指標全てが「努力を要する」となりました。

基本目標	指標及び目標値	実績値		
		27年度 (1年目)	28年度 (2年目)	29年度 (3年目)
1 出生数	平成27年～平成31年出生数 <b>27人</b> (H22～H26年13人)	3人	3人	3人
		努力を要する	努力を要する	努力を要する
2 社会移動増減	平成27年～平成31年社会移動数 <b>△40人</b> (H22～H26年△50人)	△7人	△25人	△6人
		概ね順調	努力を要する	努力を要する
3 観光地延利用者数・観光消費額	観光地延利用者数 <b>平成31年320千人</b> (平成26年273千人)	116千人	171千人	158千人
	観光消費額 <b>平成31年13.8億円</b> (平成26年11.7億円)	5.1億円	8.1億円	7.7億円
4 公共交通機関利用者数	公共交通利用者数 <b>平成31年度2,000人</b> (平成26年度1,120人)	1,022人	1,199人	1,302人
		努力を要する	努力を要する	努力を要する
5 介護を必要とする人の割合	高齢者に占める要介護者の割合 <b>平成31年減少</b> (平成26年9.3%)	9.8%	13.5%	14.1%
		努力を要する	努力を要する	努力を要する

村の人口について、平成30年4月1日現在776人で、平成29年4月1日現在の787人と比較し、11人の減少となっています。

内訳は自然減5人（出生3人、死亡8人）社会移動減6人（転出超過）です。

【村の人口の推移】

平成30年4月1日 776人（△11人）  
 平成29年4月1日 787人（△41人）  
 平成28年4月1日 828人（△11人）  
 平成27年4月1日 839人（△29人）  
 平成26年4月1日 868人（△20人）  
 平成25年4月1日 888人

～

平成15年4月1日 1136人 ※15年間で年間平均（△25人）

(2) 重要業績評価指標（KPI）の進捗状況

39の重要業績評価指標（KPI）について、基本目標と同様に3段階で評価しました。

その結果、全指標の59%に当たる23の指標で「順調」または「概ね順調」、35.9%にあたる14の指標で「努力を要する」となりました。

平成29年度（**3**年目）の重要業績評価指標（KPI）の進捗状況

基本方針	順調	概ね順調	努力を要する	実績値なし	計
1 暮らし (公共交通機関利用者数)	10 (62.5%)	0 (0%)	6 (37.5%)	0 (0%)	16 (100%)
2 移住・交流 (社会移動増減)	3 (60%)	0 (0%)	2 (40%)	0 (0%)	5 (100%)
3 産業 (観光地延利用者数・観光消費額)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	5 (55.6%)	2 (22.2%)	9 (100%)
4 子育て・福祉 (出生数、健康な人の割合)	5 (55.6%)	3 (33.3%)	1 (11.1%)	0 (0%)	9 (100%)
計 (%)	19 (48.7%)	4 (10.3%)	14 (35.9%)	2 (5.1%)	39 (100%)

※端数処理のため合計が100.0にならない場合もあります。

【進捗区分】 ※5年間の計画期間のうち、3年間で終了したことを考慮

- 順調 : 60%以上の進捗
- 概ね順調 : 40%以上 60%未満の進捗
- 努力を要する : 40%未満の進捗
- 実績値なし : 実績値がない又は把握できない

【参考】

平成 28 年度（**2** 年目）の重要業績評価指標（K P I）の進捗状況

基本方針	順調	概ね順調	努力を要する	実績値なし	計
1 暮らし (公共交通機関利用者数)	10(58.9%)	0(0%)	7(41.1%)	0(0%)	17(100%)
2 移住・交流 (社会移動増減)	3(60%)	0(0%)	2(40%)	0(0%)	5(100%)
3 産業 (観光地延利用者数・観光消費額)	1(11.1%)	2(22.2%)	4(44.4%)	2(22.2%)	9(100%)
4 子育て・福祉 (出生数、健康な人の割合)	4(44.4%)	4(44.4%)	0(0%)	1(11.1%)	9(100%)
計 (%)	18(45%)	6(15%)	13(32.5%)	3(7.5%)	40(100%)

- 順調 : 40%以上の進捗  
 概ね順調 : 30%以上 40%未満の進捗  
 努力を要する : 30%未満の進捗  
 実績値なし : 実績値がない又は把握できない

平成 27 年度（**1** 年目）の重要業績評価指標（K P I）の進捗状況

基本方針	順調	概ね順調	努力を要する	実績値なし	計
1 暮らし (公共交通機関利用者数)	12(70.6%)	0(0%)	5(29.4%)	0(0%)	17(100%)
2 移住・交流 (社会移動増減)	4(80%)	0(0%)	1(20%)	0(0%)	5(100%)
3 産業 (観光地延利用者数・観光消費額)	3(33.3%)	1(11.1%)	0(0%)	2(22.2%)	9(100%)
4 子育て・福祉 (出生数、健康な人の割合)	6(66.7%)	1(11.1%)	0(0%)	2(22.2%)	9(100%)
計 (%)	25(62.5%)	2(5%)	9(22.5%)	4(10%)	40(100%)

- 順調 : 20%以上の進捗  
 概ね順調 : 15%以上 20%未満の進捗  
 努力を要する : 15%未満の進捗  
 実績値なし : 実績値がない又は把握できない

### Ⅲ 各指標の進捗状況

#### 1 【くらし】安全・安心なくらしを守り、王滝村の特性を生かした村づくりを進めます

##### (1) 美しい山林と水源地としての清流の景観維持

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
<b>ごみ排出量の抑制</b>  <b>【備考】</b> 木曾クリーンセンターにおける王滝村分の粗大ごみ、不燃ごみ、可燃ごみの年間処理量 [長期振興計画での平成 32 年度目標値を踏まえた数値を目標]	目標値	t						247
	実績値		258	248	237	194		
	進捗区分			順調	順調	順調		
	主な施策	・生ごみの分別収集を開始 ・広報誌等を活用した啓発活動						
進捗状況の分析 及び今後の取組	平成 29 年 4 月より生ごみの分別収集を開始したため、ごみの排出量は計画以上に減少し順調に進捗しています。 引き続き、村民の意識醸成のための啓発に努めます。							
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
<b>リサイクルの推進</b>  <b>【備考】</b> 木曾クリーンセンターにおける王滝村分の資源ごみ回収量及び学校における資源ごみ回収量 [長期振興計画での平成 32 年度目標値を踏まえた数値を目標]	目標値	t						63
	実績値		58	66	62	73		
	進捗区分			順調	努力を要する	順調		
	主な施策	・広報誌等を活用した啓発活動						
進捗状況の分析 及び今後の取組	村民に資源ごみをリサイクルする意識が浸透してきており、資源ごみの回収量は目標以上となり順調に進捗しています。 引き続き、一過性のものにならないよう啓発に努めます。							
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
<b>企業団体との連携</b>  <b>【備考】</b> 年度末における水源の森パートナー協定締結件数 [水源の森パートナー協定を結ぶ団体を更に 1 団体増やすことを目標]	目標値	件						6
	実績値		5	5	5	5		
	進捗区分			順調	順調	順調		
	主な施策	・水源の森づくりパートナー協定						
進捗状況の分析 及び今後の取組	パートナー協定の締結件数は維持しており順調に推移しています。 下流域市町とのふれあい交流などあらゆる機会を捉えてパートナーになっていただける団体の募集に努めます。							

指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目 標 (H31 年度)
上下水道の整備  <b>【備考】</b> 年度末時点における上水道普及率 [普及率を維持することが目標]	目標値	%						現状維持
	実績値		99.8	99.8	99.8	99.8		
	進捗区分			順調	順調	順調		
	主な施策	・水道施設の維持管理						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	普及率は現状維持されており順調に推移しています。 引き続き、施設の維持管理に万全を期し、安全な水の供給に努めていきます。						
指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26 年)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目 標 (H31 年度)
行政関係電気使用量  <b>【備考】</b> 年間（年度）の村有施設電気使用量（村負担分） [長期振興計画の平成 32 年度目標値を踏まえた数値を目標]	目標値	KWh						757,200
	実績値		826,000	838,425	860,839	878,124		
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する		
	主な施策	・役場庁舎等における不必要な照明の消灯の実践						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	公共施設における必要最小限の照明の使用に加え、LED化に取り組んでいきます。						

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(1) 美しい山林と水源地としての清流の景観維持

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取組み	担当課
1	3Rの推進、周知、啓発	広報誌等を活用した啓発活動	B	29年度より生ごみの分別収集を開始しました。広報誌を活用した定期的な啓発を行います。食品ロス削減に向けた啓発を行います。	福祉健康課
2	村民参加の村内美化清掃及び御嶽清掃登山の実施	年2回の村内美化清掃の実施	B	29年度のごみ回収量は50kgでした。(秋の美化清掃は雨天のため中止)今後も継続して行います。※御嶽山清掃登山は入山規制により実施不可	福祉健康課
3	不法投棄防止パトロールの実施	不法投棄防止パトロール	B	不法投棄は見受けられませんでした。	福祉健康課
4	王滝村公園事業	環境美化等に関する啓発活動	C	住民全体が景観美化の意識を高める取組を検討し、自然環境を活かした村づくりを目指します。	福祉健康課
5	簡易水道の安定供給を行なうための適正な有資格事業者による施設管理、保守点検	配水池壁面補修 九蔵配水管入替	C	予算の範囲内で各種修繕工事を実施しています。専門業者による水質検査及び保守点検を委託して行っています。	経済産業課
6	電気使用量及び化石燃料使用量の削減	チラシの配布による啓発 薪ストーブの継続的利用	C	温室効果ガス排出抑制に向けて、各家庭での取組の啓発に努めます。公共施設においては照明のLED化、こまめな節電を心がけます。	福祉健康課 総務課
7	環境にやさしい自然エネルギーの検討及び導入	木質バイオマス発電に関する調査	B	これまでの導入調査の状況を踏まえながら、自然エネルギー導入のあり方について検討を進めます。	福祉健康課 村おこし推進課
8	用紙類使用量の削減	ペーパーレス会議システム導入の検討	C	ペーパーレス会議システム導入の検討をします。(タブレット端末)	総務課
9	グリーン購入の推進	コピー用紙古紙 100%使用	A	古紙100%使用を継続します。	総務課
10	公共施設の整備・維持管理や公共事業・イベント等での環境への配慮	役場庁舎の電気をLEDに交換 グリーン購入の推進	B	今後も環境に配慮した整備・物品の購入に取り組みます。	福祉健康課 総務課

(順調) A	1	10%
(概ね順調) B	5	50%
(努力を要する) C	4	40%
(実績なし) D	0	0%
合計	10	施策



## (2) 火山災害をはじめ安全安心な災害対策

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
防災・観光アプリケーションの利用者数	目標値	人						5,000
	実績値		—	450	600	680		
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する		
	【備考】 年度末におけるスマートフォン用防災・観光アプリケーションの登録者数 [年間 1,000 人程度の登録者を目標]	主な施策	・インターネット、ポスター、チラシ等を活用した啓発活動					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	・入山規制により登山者が少なくアプリ利用者数が伸び悩んでいます。木曾おんたけ観光局（DMO）を通じて、登山客が多い木曾町などと広域的な運用を検討していきたい。 ・レベルの降下により、毎週金曜日に配信されていた火山観測情報が発表されなくなったため、対応策を検討中。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
消防団人数 (機能別団員を含む)	目標値	人						70
	実績値		78	78	77	73		
	進捗区分			順調	順調	順調		
	【備考】 年度末における消防団員（機能別団員を含む）の数 [基準値の 1 割減程度を目標]	主な施策	・消防団員、機能別消防団員への勧誘活動					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	消防団員数は、前年度から若干減少しています。 今後も消防団員の減少が見込まれるため、引き続き新入団員、機能別消防団員の勧誘に努めるとともに、定年の引上げについても検討します。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
自主防災組織の育成	目標値	団体						5
	実績値		2	3	3	3		
	進捗区分			順調	努力を要する	努力を要する		
	【備考】 年度末における自主防災組織の組織数 [村内の約半数の地区で自主防災組織を組織することを目標]	主な施策	・自主防災組織の定期訓練への消防団員の派遣、指導					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	自主防災組織は 3 団体と順調に推移しています。 消防団の編成との兼ね合いもありますが、行政連絡員会議等の機会を利用して、自主防災組織の設置を依頼していきます。						

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(2) 火山災害をはじめ安心安全な災害対策

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取組み	担当課
1	御嶽山噴火対策の推進(避難施設、ビジターセンター整備、火山マイスター育成等)	H29年度火山マイスター3人認定 VC設置、避難施設設置については火山防災あり方検討会での検討を継続	B	関係機関との協議を継続し、VC、避難施設の検討を行います。 村独自では、御嶽山9合目上部の施設整備を行います。(H30～)	総務課 経済産業課
2	安全・安心な情報通信体制の整備	防災無線、J-ALERTの保守点検	B	今後も防災無線、J-ALERTの保守点検を行います。	総務課
3	防災・観光アプリケーションの開発整備及び活用	H28年に開発整備を行ったアプリの改良及び運用	C	今後、観光DMOを通じて木曾町と連携し御嶽山麓の防災を中心とした広域のかつ効果的な活用策を検討します。	村おこし推進課 総務課
4	消防団の組織再編と機能別団員や女性団員の任用による団員の確保	団員確保のための積極的な勧誘	B	消防団員数は機能別団員を含め、概ね想定通りです。今後も勧誘活動を継続し、団員確保に努めます。	総務課
5	自主防災組織の育成強化	滝越、りんどう平の自主防災組織の訓練に消防団員を派遣	B	消防団員と合同で訓練を実施するなど、技術、知識の習得に努めています。今後も組織育成強化に努めます。	総務課
6	広域消防、近隣町村や関係機関をはじめ役場消防隊や自主防災組織などとの連携強化	広域消防との合同訓練を実施	B	各関係機関との連携を強化していきます。	総務課
7	要援護者や高齢者世帯及び一人暮らし高齢者の救助体制の確立	要支援要援護者台帳の随時更新	B	定期的に台帳更新を行い、地域の状況を把握します。 登録者及び地域住民が安心して暮らせるよう関係機関で情報を共有し、支援業務が的確に行える体制を作っていきます。	福祉健康課
8	住民支え合いマップの充実と地域との連携による支援体制の強化	要支援要援護者台帳の随時更新	B	整備された台帳が有事の際に機能できるよう、連動してマップを整備していきます。 消防や地域住民・関係機関などと連携を図り、支援体制の検討や整備に向けた取り組みをしていきます。	福祉健康課
9	防災無線やCATV、携帯電話(防災メール)など情報伝達の多重化	災害時等、防災行政無線や携帯電話(緊急速報メール)での情報伝達	B	防災行政無線デジタル化に着手します。(H30～)	総務課
10	袋小路の解消(白巣峠など)に向けた取組	みうれ3か村交流会の開催	C	数年ぶりに「みうれ3か村(旧加子母村、旧付知町、旧川上村)交流会」を開催し、約80人が真弓峠と白巣峠の道路状況の視察を行うとともに、村民と意見交換を行いました。	総務課

(順調)	A	0	0%
(概ね順調)	B	8	80%
(努力を要する)	C	2	20%
(実績なし)	D	0	0%
合計		10	施策

(3) 安全なくらし

指 標 名	年度	単位	基準値 (H27.11末)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
<b>交通死亡事故ゼロ記録の更新</b>  <b>【備考】</b> 年度末における交通死亡事故ゼロの期間 [交通死亡事故ゼロの期間が続くことが目標]	目標値	日						更新
	実績値		10,765	10,887	11,252	11,617		
	進捗区分			順調	順調	順調		
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の街頭指導</li> <li>学校交通安全教室の開催</li> <li>観光客向け街頭指導所開設</li> </ul>						
	進捗状況の分析及び今後の取組	交通死亡事故ゼロの期間が引き続いており順調に推移しています。継続した街頭指導、交通安全教室の実施により、今後も交通安全意識の継続に取り組みます。 また、高齢者の交通安全対策について検討し、取り組んでいきます。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
<b>消費者被害</b>  <b>【備考】</b> 消費者被害として役場に報告等がされた件数 [0件を維持することが目標]	目標値	件						維持
	実績値		0	0	0	0		
	進捗区分			順調	順調	順調		
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>啓発資料の作成・配布</li> <li>郡内での発生事例の情報提供</li> </ul>						
	進捗状況の分析及び今後の取組	継続的な啓蒙活動により平成29年度においても被害報告は受けておらず順調に推移しています。 引き続き、啓発資料の作成・配布、郡内での発生事例の迅速な情報提供に努めていきます。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
<b>村内巡回バス台数の増</b>  <b>【備考】</b> 年度末における巡回バスの運行台数 [巡回バスの運行台数を2台にすることが目標]	目標値	台						2
	実績値		2	1	2	2		
	進捗区分			順調	順調	順調		
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年3月から2台体制で運行をしています。</li> </ul>						
	進捗状況の分析及び今後の取組	平成28年度に車両導入し、29年度2台体制運行としており、順調に推移しています。 平成30年度以降は利用者の利便性向上に努めます。						

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
<b>村道改良率</b>  <b>【備考】</b> 年度末における村道の改良率 [長期振興計画での平成 32 年度目標値を踏まえた数値を目標]	目標値	%						45.4
	実績値		42.0	41.8	41.8	41.8		
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する		
	主な施策	・村道 41 号線道路改良						
進捗状況の分析 及び今後の取組	今後は道路の維持、防災を重点に取り組むとともに、村道のあり方について検討を行っていきます。							
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
<b>村道舗装率</b>  <b>【備考】</b> 年度末における村道の舗装率 [長期振興計画での平成 32 年度目数値を踏まえた数値を目標]	目標値	%						58.6
	実績値		56.0	55.8	55.8	55.8		
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する		
	主な施策	・舗装の維持管理						
進捗状況の分析 及び今後の取組	現時点では舗装の維持管理に努めています。 今後は予算を踏まえながら必要な個所への道路舗装に努めるとともに、村道のあり方について検討を行っていきます。							
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
<b>通信環境の広帯域化</b>  <b>【備考】</b> 年度末における広域連合が整備しているインターネット回線の通信速度 [光ケーブルの一般的な通信速度である 100Mbps を目標]	目標値	Mbps						100
	実績値		30	30	30	30		
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する		
	主な施策	—						
進捗状況の分析 及び今後の取組	平成 30 年度に全線光化に着手し、事業の完了とともに 100M の提供が可能となります。							

指 標 名	年度	単位	基準値 (H27年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31年度)
<b>公共等施設の耐震化</b>  <b>【備考】</b> 年度末における非耐震施設の数 [5年間で2施設の耐震化を実施することを目標]	目標値	施設						10
	実績値		12	12	12	12		
	進捗区分			順調	順調	順調		
	主な施策	—						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	王滝村耐震改修促進計画の更新版に基づき、王滝村公共施設等総合管理計画進捗委員会において施設の優先順位付けを考慮した上で、耐震化に取り掛かる予定にしています。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31年度)
<b>王滝村公共施設総合管理計画</b>  <b>【備考】</b> 当該年度における王滝村公共施設等総合管理計画の策定状況 [王滝村公共施設等総合管理計画の策定が目標]	目標値							策定
	実績値		—	未策定	策定済み	策定済み		
	進捗区分			順調	順調	順調		
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村有施設財産台帳の整備</li> <li>・王滝村公共施設等総合管理計画の策定</li> </ul>						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	すべての村有施設の財産台帳の整備が終了し、平成 28 年度に王滝村公共施設等総合管理計画を策定しました。今後は他の計画と合わせ公共施設の耐震化を図るように検討していきます。						

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(3) 安全なくらし

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取組み	担当課
1	防犯対策及び環境対策 LED防犯灯の維持管理	老朽化した柱の交換など 村内防犯灯の維持管理	A	地区要望等に応じ、移設、新設を実施して いきます。	総務課
2	こども育成会の充実強化 など地域をあげて青少年 健全育成の推進	子ども育成会等での指導 者研修 青少年健全育成のための 啓発活動	B	子ども育成会による指導者や保護者向けの 研修会の開催や交通安全週間などの時期を 捉え、児童生徒や青少年への声かけや啓発 活動を実施していきます。	教育委員会
3	防犯、交通安全関連優良 団体、功労者の表彰	功績のある方の推薦・表 彰	B	平成29年度長野県交通安全運動推進本部頭 彰交通安全功労(個人)1名受賞。 今後も功績のある方を推薦していきます。	総務課
4	家庭、職場、学校、保育 園等における交通安全教 育の推進	交通安全協会による街頭 指導、学校交通安全教室 での指導	B	児童生徒が減少していく現状を踏まえて、 学校、保育園とも協力し、よりよい交通安 全教育を実施していきます。	総務課
5	電動カート講習会開催な ど安全利用の推進、子ど もと高齢者の交通事故防 止	高齢者交通安全大会への 参加	B	木曾郡で開催された高齢者交通安全大会に 参加し、交通安全に対する意識向上を行いま した。村独自の電動カート講習会の開催を 検討します。	総務課
6	村内危険箇所の点検と交 通安全施設の整備	村内にある交通安全啓発 用のぼり旗等、啓発用品 の更新	B	今後も、啓発用品で交通安全を呼びかける とともに、交通安全協会、道路管理者で危 険箇所点検を実施し交通事故の防止に努め ます。	総務課
7	啓発資料の作成配布	チラシ配布	B	特殊詐欺を含めた消費者被害「0」に向け、 今後も啓発活動を継続します。	総務課
8	村内及び近隣町村での発 生事例等の情報提供	広報による情報提供	B	特殊詐欺を含めた消費者被害「0」に向け、 今後も啓発活動を継続します。	総務課
9	人権啓発、人権教育の推 進	小中学校で人権について 考える”みんなの樹業” を定期的に開催	B	人権への関心が広がるように引き続き人権教 室や広報誌等の掲載等を地道に取り組んでい きます。	福祉健康課 教育委員会
10	人権相談所、心配ごと相 談所の利用促進	毎月テーマごとの相談所 を開設	B	引き続き身近な相談所ということで、村内で 毎月開設していきます。 広報など随時行い周知を図るよう努めてい きます。	福祉健康課
11	人権に関する関係機関と の連携	情報の共有やネットワー クづくりを図るため各種 担当者会議へ出席	B	人権問題の啓発、解決等を関係機関(教育 委員会、学校、行政、人権擁護委員、法務 局、木曾郡障がい者自立支援協議会等)と 連携を図りながら取り組んでいきます。	福祉健康課 教育委員会
12	男女共同参画推進の基盤 づくり	県で開催した研修に参加	C	平成29年度に策定できなかった男女参画基 本計画について再検討していきます。	福祉健康課
13	男女平等意識の啓発、普 及	役場、保健センターなど への啓発パンフレットの 設置	B	各種窓口へ啓発用のパンフレットなどの設 置を行うほか広報紙などへの掲載を随時し ていくよう努めます。	福祉健康課
14	男女が共に働きやすい環 境づくりの推進	上記同様パンフレットの 設置	C	地域社会全体の意識の向上を図れるよう広 報紙等を活用した取組みを行っていきま す。	福祉健康課
15	基幹路線バス確保対策事 業	前年度なみの路線、便数 を維持	B	現状の路線、便数を維持していきます。	総務課
16	村内巡回バス運行事業	2台体制での運行を実施	B	利用者の利便性向上を目指します。	総務課

17	巡回バス運行事業に携わる運転有資格者の育成及び確保対策事業	H29年度 資格取得3名	B	次年度以降も有資格者の確保を図ります。	総務課
18	社会福祉協議会への運行委託で実施している過疎地有償輸送との密な連携対策事業	必要に応じ調整会議を開催(8回)	B	必要に応じ調整会議を開催し、住民ニーズへの対応を図ります。	総務課
19	道路の定期的な安全点検及び防災事業の実施	道路の定期点検・計画的な道路改良工事	A	道路定期点検委託、橋梁修繕の実施	経済産業課
20	村民との協働作業による維持管理	村内草刈り・地区内の除雪作業	A	住民の負担にならない様に村内の草刈り実施、地区内の除雪作業(要望地区への除雪機の配備)	経済産業課
21	既存ケーブルテレビを活用したデジタル自主放送設備の整備	外注による番組制作	B	「小中学校音楽会」の番組制作を継続します。	総務課
22	(広域)木曾高度情報通信網の整備	H29年全線光化に向けた調査検討	B	H30～全線光化事業着手	総務課
23	電子自治体の推進	一部の申込に電子申請を導入	B	電子申請利用分野の拡大を検討していきます。	総務課
24	王滝村耐震改修促進計画の策定	計画の見直し作業中	C	平成30年度上半期で見直しをします。	総務課
25	公共施設・災害時避難所・集会施設等の更新・耐震化に向けた優先順位付け	公共施設等総合管理計画会議の開催	B	平成29年度は、総合管理計画の全体像について説明を行いました。平成30年度では個々の施設の利用見通しについて、月1回のペースで会議を開催し検討を進めていきます。	総務課
26	インターネットを使った公共財産の売買等情報提供の充実	村ホームページへの掲載を検討	C	売買物件の精査から開始	総務課
27	公共施設あり方検討委員会によるコスト削減の具体化の検討	公共施設等総合管理計画会議の開催	B	平成29年度は、総合管理計画の全体像について説明を行いました。平成30年度では個々の施設の利用見通しについて、月1回のペースで会議を開催し検討を進めていきます。	総務課
28	村民からの意見交換による活用策の検討	公共施設等総合管理計画会議の開催	B	平成29年度は、総合管理計画の全体像について説明を行いました。平成30年度では個々の施設の利用見通しについて、月1回のペースで会議を開催し検討を進めていきます。	総務課
29	使用不能な公共施設の計画的改修撤去	公共施設等総合管理計画会議の開催	B	平成29年度は、総合管理計画の全体像について説明を行いました。平成30年度では個々の施設の利用見通しについて、月1回のペースで会議を開催し検討を進めていきます。	総務課
30	王滝村絆助成事業の実施	団体の絆助成事業の実施	C	H29年度6団体が実施予定であったが2団体が中止を申し入れ。業者発注のみの事業も見受けられコミュニティの健全な発展が図られているか見直しが必要です。	村おこし推進課

(順調)	A	3	10%
(概ね順調)	B	22	73.3%
(努力を要する)	C	5	16.7%
(実績なし)	D	0	0%
合計		30	施策

## 2【移住・交流】村の特性を活かした移住・交流を進めます

### (1) 幸せを感じる村づくりによる移住促進

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
<b>テレワーカー等行政 関与の移住</b>  <b>【備考】</b> 年度末時点のテレワーカー等 行政関与による移住者の数 [年間1人程度の移住者を目 標]	目標値	人						5
	実績値		—	1	0	0		
	進捗区分			順調	努力を要する	努力を要する		
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サテライトオフィスとなる施設の整備</li> <li>・「おうたき寺子屋」の開設</li> <li>・地域おこし協力隊員の採用</li> </ul>						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	テレワークの推進、地域おこし協力隊の定住サポートの取組により移住者の確保に努めていきます。村HP等を活用して積極的に情報発信を行っていききたいと思います。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
<b>地域おこし協力隊員 の採用</b>  <b>【備考】</b> 地域おこし協力隊員の累計 採用数 [毎年2名程度の採用を目 標]	目標値	人						15(累計)
	実績値		5(累計)	8(累計)	12(累計)	17(累計)		
	進捗区分			順調	順調	順調		
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域おこし協力隊員の採用</li> </ul>						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	隊員を随時採用し順調に推移しています。 地域おこし協力隊員への定住サポートの取組を引き続き行うとともに地域の活性化に向けて地域おこし協力隊の採用を進めていきます。 平成29年度末で8人。(現在は10人)						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
<b>サポートによる結婚</b>  <b>【備考】</b> 年度における行政、関係機関 が関与した婚姻の数 [行政、関係機関が関与した 婚姻が成立することを目標]	目標値	組						1以上
	実績値		—	0	0	0		
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する		
	主な施策	—						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	個人情報の保護の観点から踏まえた行政によるサポートのあり方について、他町村での取組などを調査研究し、取組方法を検討していきます。またH29年度は結婚相談窓口を役場(村おこし推進課)に設置するとともに担当者を配置しました。						



王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(1) 幸せを感じる村づくりによる移住促進

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	ふるさとテレワークの推進	おためしナガノ&ときどきナガノ事業の活用	C	県の事業へエントリーしたが希望者がいませんでした。今後は取組み内容の検討を行い、活用を図ります。	村おこし推進課
2	老朽化した住宅の更新整備、新設住宅整備の検討	公共施設等総合管理計画会議の開催	B	平成 29 年度は、総合管理計画の全体像について説明を行いました。平成 30 年度では個々の施設の利用見通しについて、月 1 回のペースで会議を開催し検討を進めていきます。	総務課
3	移住相談窓口の設置、移住体験の推進	信州移住セミナーへの参加、長野県移住コンシェルジュへの登録	C	東京都で開催された移住セミナーへ参加し家族 4 人の定住に繋がりました。H29 年 7 月移住コンシェルジュへ登録しました。木曾地域共同での事業展開を行います。	村おこし推進課
4	空き家、住宅情報の提供	田舎暮らし「楽園信州」での情報発信	C	手段としては田舎暮らし「楽園信州」を活用するが掲載がなく、総務課事業との調整が必要です。	村おこし推進課 総務課
5	定住促進のための就労相談、就職情報の提供	首都圏等での相談会への出席 田舎暮らし「楽園信州」での情報発信	B	地域おこし協力隊員、集落支援員の採用などにつながり効果が見られました。今後も継続した事業展開を行います。	村おこし推進課
6	住宅整備における地元産材の活用と山林所有者との連携しくみづくり	村営住宅整備時プロポーザルへの条件提示	D	長期的な計画で地域材のストック場所の確保が必要。	経済産業課 総務課
7	定住環境の魅力アップ	地域おこし協力隊制度による空家整備	C	引き続き定住に向けて必要となる環境整備を図ります。	村おこし推進課
8	田舎暮らしの良さの PR 情報通信網の整備	田舎暮らし「楽園信州」での情報発信 木曾広域連携移住交流部会への参加	C	平成 29 年度、木曾広域移住交流部会で定住促進ガイドブックを作成しました。今後木曾地域共同での PR や事業展開を行います。	村おこし推進課
9	森林資源活用のための基礎調査	木質バイオマスエネルギー導入計画策定業務	B	林地残材・未利用材収集方法について素材生産者等との検討に入っています。	村おこし推進課
10	村民参加による王滝村のランドデザイン	王滝村総合戦略会議の開催 各分野の専門的会議等での施策検討	C	長期振興計画、総合戦略を王滝村の基本計画、ランドデザインと位置づけ、各分野の専門的会議等を通じて村民参加により施策推進に取り組みます。	村おこし推進課
11	ひとり親家庭も含めた子育て世代の移住促進プロジェクト	先進地事例の研究	D	長野県等の取り組みに注視し引き続き検討、受入体制の整備も必要	村おこし推進課
12	独身者の状況把握	独身者の状況把握	D	個人情報の関係もあり把握が難しいが、地道に取り組みたい。	村おこし推進課
13	相談窓口の設置	相談窓口の設置及び職員の配置	D	集落支援員による相談会等を検討したい。	村おこし推進課
14	行政、関係機関とのサポート体制づくり	様々な媒体を通じた積極的な情報提供	C	情報の共有、サポート体制のあり方について検討を図りたい。	村おこし推進課
15	出会い、交流の場の提供	村公民館を拠点とした取り組み	D	各種団体・関係機関と連携しての婚活事業の実施	村おこし推進課

(順調)	A	0	0%
(概ね順調)	B	3	20%
(努力を要する)	C	7	46.7%
(実績なし)	D	5	33.3%
合計		15	施策

(2) 下流域地域など交流の一層の充実

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31年度)
ふるさと村民数	目標値	人						350
	実績値		119	240	324	340		
	進捗区分			順調	順調	順調		
	【備考】 年度末におけるふるさと村民登録者数 [ふるさと村民登録者数が3倍程度になることが目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村HPでの周知</li> <li>・下流域市町との交流での制度周知</li> </ul>					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	登録者数が増加し、順調に推移しています。 ふるさと村民地域づくりアドバイザーの知恵を借り、更なる下流域などとの交流促進に努めながら、村の応援団である「ふるさと村民」への登録に繋がっていきます。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H27年)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31年度)
下流域市町とのふれあい交流	目標値	回						34
	実績値		31	39	35	34		
	進捗区分			順調	順調	順調		
	【備考】 年間（年度）の王滝村での役場を介した下流域市町との交流事業の回数 [下流域からの交流事業での来村回数を基準値から1割程度増やすことが目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑のバトン事業</li> <li>・下流域市町等の森林整備</li> <li>・水源の森パートナー事業</li> </ul>					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	御嶽山噴火災害復興支援もあり、目標値を上回る状況を維持しています。 現在の交流が途切れることのないよう努めていくとともに、事業回数の増加と交流人口の拡大に取り組みます。						

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(2) 下流域地域など交流の一層の充実

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取組み	担当課
1	企業団体等との連携による水源の森づくり事業の促進	牧尾ダム水源の森づくりパートナー協定の締結	B	現在5団体と協定。新規団体との締結や締結団体の協定内容の見直し等も行いたい。	村おこし推進課
2	下流域及び企業ボランティアの募集	牧尾ダム水源の森づくりパートナー協定の締結	B	現在5団体と協定。新規団体との締結や締結団体の協定内容の見直し等も行いたい。	村おこし推進課
3	交流促進のための施設整備	利用可能な有休施設の把握	D	地域住民との交流方法等について検討し、それに沿った施設内容を継続調査	村おこし推進課
4	交流による経済、文化など地域活力の向上	下流市町開催の産業まつり等への参加	C	経済、文化の地域活力の向上までには至らない。	村おこし推進課
5	村民と都市住人共同による森林の保全再生活動	未来世紀へつなぐ緑のバトン事業	B	森林整備等で下流市町等から来村。今後、共同で保全再生を行う体制づくりに向けた取組みが必要	村おこし推進課
6	魅力ある村づくりプロジェクト	木質バイオマス利活用による持続可能な地域づくりの検討	D	住民と共に森づくり・自然エネルギーの勉強会等を開催する中で、森づくりビジョン・自然エネルギー推進コンセプト等の検討をおこなうプロジェクトとしたい。	村おこし推進課
7	公共施設集約化事業・村有地の利活用に向けた整備	公共施設等総合管理計画会議の開催	B	平成29年度は、総合管理計画の全体像について説明を行いました。平成30年度では個々の施設の利用見通しについて、月1回のペースで会議を開催し検討を進めていきます。	総務課
8	交流の拠点づくり	先進地事例の研究	D	世代毎、世代間の交流ニーズについて調査を行いたい。	村おこし推進課

(順調)	A	0	0%
(概ね順調)	B	4	50%
(努力を要する)	C	1	12.5%
(実績なし)	D	3	37.5%
合計		8	施策

### 3【産業】新たな産業や観光振興による村内の雇用の創出を図ります

#### (1) 観光資源の活用による地域振興

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年)	H27年	H28年	H29年	H30年	目標 (H31年)
観光地利用者延数 (宿泊者)	目標値	人						83,200
	実績値		71,000	27,200	34,800	31,900		
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する		
	【備考】 県観光地利用者統計調査における年間宿泊数 [年間 2,500泊程度の増を目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DCキャンペーンによるPR</li> <li>・県外者向けプレミアム商品券の発行</li> <li>・冬季シーズン優待券発行 ・復興対策キャンペーンの実施</li> <li>・カヌーツアーの実施</li> </ul>					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>御嶽山の噴火以降、入山規制や風評被害等により観光客は、まだまだ戻ってきていない状況です。前年度から減少した要因としては、6月25日に発生した地震とお盆前後の天候不順によるものと考えられます。 (被災し現在でも営業休止中の宿泊施設がある。) 新たに設立された(一社)木曾おんたけ観光局と連携し、滞在型の観光地づくりと利用者の増加を目指します。</p>						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
ツアーガイドの養成	目標値	人						10(累計)
	実績値		5	7(累計)	8(累計)	9(累計)		
	進捗区分			順調	概ね順調	概ね順調		
	【備考】 年度末におけるアウトドアに関するガイドの養成数 [年間1人程度のガイドの養成を目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カヌーツアーガイドの養成</li> <li>・滝行ガイド等の人材育成の取組</li> </ul>					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>カヌーツアーガイドの養成は精力的に実施しており順調に進んでいる。 木曾おんたけ観光局において、地方創生推進交付金を活用して他分野のガイドの育成にも取り組んでいきます。</p>						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
御岳湖カヌー利用者数	目標値	人						1,000
	実績値		140	658	591	537		
	進捗区分			順調	概ね順調	努力を要する		
	【備考】 御岳湖カヌーツアーの年度利用者数 [一月平均150人程度の利用を目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオ、雑誌、HP、イベントを活用した広告宣伝</li> <li>・インターネット予約サービス</li> <li>・DCキャンペーン等によるPR</li> </ul>					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>6月中旬から7月中旬まで湯水で営業休止になったこととお盆前後及び9月の天候不順の影響により利用者数は、対前年91%にとどまった。 今後、(一社)木曾おんたけ観光局の主力ツアーとして誘客活動に取り組んでいきます。</p>						

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
スポーツ合宿受入団体・来村者数	目標値	団体						15(700)
	実績値	(人)	9(500)	10(475)	11(630)	13(749)		
	進捗区分			概ね順調	順調	順調		
	【備考】 年度における村有施設利用団体数及び施設利用者の延数 [年1団体程度の増を目標]	主な施策	—					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	団体数は2団体増え、利用者数についても2割増と順調に推移している。国民体育館の老朽化など課題もあるが、今後も積極的なPRと、松原スポーツ公園を主力とした受入環境の整備によりスポーツ合宿誘致を推進します。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
観光路線バスの運行期間拡大	目標値	日						運行期間の増
	実績値		夏・秋 (108)	夏・秋 (71)	夏・秋 (40)	夏・秋 (52)		
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する		
	【備考】 観光路線バスの年間運行期間 [年間運行期間を拡大することが目標]	主な施策	・御嶽山入規制により、休日だけの運行となった。					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	平成26年9月の御嶽山噴火災害の影響により平成29年度まで運行期間を短縮しています。 御嶽山の噴火警戒レベルの状況を踏まえながら運行期間の検討を行います。						

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(1) 観光資源の活用による地域振興

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	村ブランドストーリーの展開【いのち呼び覚ますところ「おんたけ王滝」】	木曾おんたけ観光局における新たなブランドコンセプトの検討	B	今まで集積してきた王滝村のブランドストーリーを継承する形で、木曾おんたけ観光局における新たなブランドコンセプト策定にあたりました。	村おこし推進課
2	新たなツーリズムの開発と、住民・観光客への自然環境保護の啓発	ダムを活用したツーリズム国有林を活用したツーリズム森林・林業体験交流促進対策検討委員会	C	ダムツアーや国有林ウォーキングを実施。引き続き、観光事務所・森林管理署等と連携し、地域資源を活用した新たなツーリズムの開発、検討を行います。特に瀬戸川国有林の活用に力をいれてまいります。	村おこし推進課
3	ツアーガイドの養成と活用	カヌーツアーガイドの養成	C	引き続きカヌーツアーガイドの養成とスキルアップに取り組むとともに、今後、御嶽古道や瀬戸川国有林など多分野におけるガイド養成に取り組めます。	村おこし推進課
4	利用者の立場に立った観光地の整備	清滝・新滝の歩道整備 銀河村キャンプ場等村有施設の改修	B	6月の地震により通行できなくなった清滝の歩道の仮設整備や銀河村キャンプ場、松原スポーツ公園の施設整備を実施。今後、地方創生推進交付金を活用し御嶽古道やアウトドアスポーツなど新たな環境整備を推進します。	村おこし推進課
5	おもてなしの心、受入体制の充実	外国人向けマップの製作 事業者向け英会話教室の開催 外国人ファムツアーの実施	C	引き続き、おもてなしの心、受入れ体制の充実など、インバウンド対応を加えたソフト面の受入環境向上に取り組めます。	村おこし推進課
6	エコツーリズムの拡大と積極的な推進	カヌーツアーや国有林を活用したプログラムの推進	C	今後、木曾おんたけ観光局や木曾地域広域観光振興プロジェクト会議と連携し、滞在型観光を目指したエコツーリズムの拡大と積極的な推進を行います。	村おこし推進課
7	ICTを活用した観光施設支援事業	来訪者向け防災、観光情報発信システムの運用	B	田の原観光センター、スキー場施設へデジタルサイネージを整備。今後、インバウンド対応も含め、効果的な支援策を検討します。また、御嶽山ビジターセンターでの活用を検討してまいります。	村おこし推進課
8	村民や民間団体を主体とする観光振興	各種アウトドアイベントの実施 おんたけ湖ハーフマラソン大会の実施	B	引き続き住民や民間団体主体のイベントへの支援を実施します。	村おこし推進課
9	観光路線バス事業の継続と地元観光業者との運行協力体制の確立	入山規制に伴い運行日を減らして実施	C	現状の入山規制が継続する間は、グリーンシーズンの休日のみの運行を継続します。	総務課
10	合宿誘致などトレーニングコースの整備（松原スポーツ公園リニューアル、クロスカントリーコースの設置）	既存のスポーツ施設を活用した合宿誘致	C	H28年度に合宿誘致に関する調査研究事業を実施。今後、ニーズやマーケティングの要素を加味し、中長期的な観点から計画的なコース整備を目指します。	村おこし推進課
11	アウトドアスポーツの一層の推進	「スポーツ王国王滝」の推進	C	引き続き「スポーツ王国王滝」を旗印として掲げ、既存コンテンツの更なる磨き上げと、新たなツーリズム・プログラムの開発に取り組めます。平成30年度からは地方創生推進交付金を活用してまいります。	村おこし推進課

12	新たな観光戦略の策定・推進「世界水準の滞在型観光地」「日本遺産」	「世界水準の滞在型観光地」を目指し日本版DMO（木曾おんたけ観光局）の設立	A	DMOを核として、山岳高原の地域資源を活かした世界水準の滞在型観光地づくりに積極的に取り組みます。また、日本遺産との連携を図り、新たな観光戦略を推進します。	村おこし推進課
13	木曾地域の資源を活かした広域観光地づくりの推進	木曾おんたけ観光局（木曾町と連携） 日本遺産（7市町村で連携）	B	山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくり、日本遺産登録による自然的、歴史的資源の価値向上と発信に他自治体等と連携して取り組みます。	村おこし推進課
14	日本版DMOの推進	「世界水準の滞在型観光地」を目指し、平成29年6月、日本版DMO（木曾おんたけ観光局）を設立	A	木曾おんたけ観光局自立に向け、地域全体として事業への理解、事業参加、事業のPRを行い、地方創生推進交付金などを活用した財政的支援やハード整備を担い、観光を軸とした地域づくりの支援を積極的に行います。	村おこし推進課

(順調)	A	2	14.3%
(概ね順調)	B	5	35.7%
(努力を要する)	C	7	50%
(実績なし)	D	0	0%
合計		14	施策

(2) 自然エネルギーの活用による雇用創出

指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
<b>新たな雇用創出</b>  <b>【備考】</b> 年度末における木質バイオマス等自然エネルギーの活用に伴った雇用者の数 [自然エネルギーの活用を雇用に繋げ、雇用者が 30 人になることが目標]	目標値	人						30
	実績値		—	—	—	—		
	進捗区分			実績値なし	実績値なし	実績値なし		
	主な施策	—						
	進捗状況の分析及び今後の取組	自然エネルギーの活用による雇用創出については、研究を始めたばかりのものであるので今回は実績値なしとします。 王滝村の自然を生かし、木質バイオマスの活用について研究を進めていきます。						
指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
<b>年間木材搬出量</b>  <b>【備考】</b> 年間（年度）の村内における木材搬出量 [村内における木材搬出量を 5 倍程度にすることが目標]	目標値	m <sup>3</sup>						500
	実績値		110	220	100	100		
	進捗区分			順調	努力を要する	努力を要する		
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>搬出コスト削減のための作業路網の整備</li> </ul>						
	進捗状況の分析及び今後の取組	木材の搬出量は搬出作業の担い手不足などの要因により減少傾向にある。						



王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(2) 自然エネルギーの活用による雇用創出

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	木質バイオマス事業の推進	木質バイオマスエネルギー導入計画策定業務	C	木質バイオマスの基本調査結果を基に事業化に向けた計画を策定します。	村おこし推進課 経済産業課

(順調) A	0	0%
(概ね順調) B	0	0%
(努力を要する) C	1	100%
(実績なし) D	0	0%
合計	1	施策

### (3) 地域に根ざした産業の振興

指 標 名	年度	単位	基準値 (H24 年)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
卸・小売業の年間商品販売額(1人当たり年間商品販売額)  【備考】 経済センサス又は商業統計速報での王滝村の卸・小売業の年間商品販売額(1人当たり年間商品販売額) [毎年1%向上することを目標]	目標値	万円						毎年1%の向上
	実績値		1,026	—	—	—		
	進捗区分			実績値なし	実績値なし	実績値なし		
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレミアム商品券の発行</li> <li>・優待券の発行(ありがとうキャンペーン)</li> </ul>						
進捗状況の分析及び今後の取組	<p>昨年度経済センサス活動調査が実施されたが、速報等の調査結果が公表されておらず、現時点については算定が不可能なため実績値なしとします。</p> <p>引き続き、村内の消費喚起に資する施策を実施していきます。</p>							
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
遊休農地面積  【備考】 年度末における遊休農地面積 [遊休農地を15%程度減少させることを目標]	目標値	ha						11
	実績値		13	15	11	12		
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する		
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省力化農産物の掘り起こし</li> <li>・王滝かぶ等特産作物の作付け誘導及び維持</li> </ul>						
進捗状況の分析及び今後の取組	<p>高齢化による耕作放棄に歯止めがかからない状況となっています。個人での新たな担い手の確保には無理があるため、地域の農業者が連携できる組織づくりや営農方法を検討し、遊休農地を活用した特産品の生産を検討する。合わせて、遊休農地の活用として景観形成植物(花畑)等の取り組みも推進します。</p>							

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(3) 地域に根差した産業の振興

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	企業誘致のための条件整備	王滝村創業支援事業	C	木曾町とともに経済産業省等の認定を受けて行う創業支援計画の一環として「創業木曾ゼミ」を開催。創業支援事業補助金交付要綱も制定しました。	村おこし推進課
2	農林商工連携による新たな産業の創造	観光事務所や商工会と農林産物加工販売業者が連携した物産展等への出展、販売促進	C	物産展や産業まつりへの積極的な参加のほか、旅行ツアーへお土産の組み込みなど試みました。今後、農林業者・農林産物加工販売業者・商業・飲食店・宿泊施設などとの連携体制づくりに取り組みます。	村おこし推進課 経済産業課
3	六次産業化への支援	六次産業支援に向けた体制づくりの調査、研究 木曾地域「長野県ものづくり産業戦略プラン」の策定	D	生産・加工・販売が一体となった、六次産業支援に向けて体制づくりに取り組みます。	村おこし推進課 経済産業課
4	村内事業の受け皿となる事業所の設立	既存村内事業の状況把握、課題整理	D	既存村内事業の状況把握、課題整理を進め、村内事業の受け皿となる事業所の設立を検討していきます。	村おこし推進課 経済産業課
5	省力化農産物の掘り起こしと王滝かぶ等特産物の作付け誘導及び維持	王滝かぶ委託採種契約、種購入 西洋わさび試験栽培支援	C	王滝かぶ作付け誘導について、新規就農者がいないため個別では進まないのが現状です。地域の農業者の連携を活かせる組織をつくり生産方法を検討する必要があります。引き続き西洋わさびの耕作拡大も合わせて行っていきます。	経済産業課
6	合理化組合の生産組織経営体（農業法人化）への発展的再編	そば作付け委託関係事務処理補助 役員会・総会での助言	D	現行の受託面積の維持のためにも、今後高齢化による草刈り作業の負担部分を補えるような事業展開を検討する必要があります。その他、各種機械取り扱い講習会を実施します。	経済産業課
7	農地の利用集積の促進による遊休農地の発生防止と有効利用の促進	未利用権設定者に対して利用権設定の促進	C	個人では、これ以上農地を借りて耕作する人がいないのが現状です。組織による農地の利用集積を促進させ、特産品の生産を拡大する事業展開を検討します。	経済産業課
8	防除・駆除・環境整備の観点から効果的かつ総合的な有害鳥獣対策の継続実施	有害獣防除事業補助の実施 有害獣追払い等のパトロール実施	C	補助要件の見直しやパトロールの在り方を検討します。今までの要望や反省点等整理し、総合的な防除につながるよう努めます。	経済産業課
9	自然との調和を基調とした農村環境の整備	農道・用水・施設周りの草刈実施	C	ホタル水路等用水路の整備等を実施しました。今後は、補助金等を活用した各施設等の修繕を検討し、機能を維持するよう努めます。	経済産業課
10	遊休・荒廃農地の増加を抑え、解消するための様々な事業展開	農地のなんでも相談受付 下限面積の引下げによる農地移動制限の緩和	C	従来のご案内では農地相談数も限られる。積極的な農業機械の取扱講習会を実施しながら、転入されてきた方々へも農業に取り組みやすくなる環境を提供するなかで、新規営農の希望、相談に対応できるよう働きかけます。	経済産業課
11	造林事業の促進による森林保全	人工林の長伐期施業における森林保全	C	国の補助金減により財源確保が課題。森林保全基金の確保を促進する。	経済産業課

12	森林組合との長期施業委託	森林組合での集約化事業による面的整備	D	国の補助金体制の変更による対象林分の減少。森林組合作業員の担い手不足により厳しい状況。	経済産業課
13	間伐材の利用促進による自然エネルギーの有効活用	木質バイオマス関連事業を注視し検討する。	D	地元での木質バイオマス事業の進展がない為動向を注視する。木曾町の木質バイオマス事業の動向調査を実施。	経済産業課
14	森林路網整備による低コスト木材の搬出	計画的作業路を進め木材搬出量確保	D	木質バイオマス事業の動向調査により木曾森林組合と協議し推進する。(受入先との契約)	経済産業課
15	公共事業での木材利用の促進	公共事業での木材利用の促進	C	土木工事等で少量を使用しました。今後も可能な範囲で利用します。	経済産業課
16	除間伐材の利活用による新規起業支援(間伐材での利活用、除伐材は薪原木)	利活用にに向けた取り組みの推進。	D	薪利用に向けた取り組みの継続	経済産業課
17	木材販売における「王滝」ブランド化の推進	長伐期を念頭においた良質材のブランド化	D	高齢級の良質材販売がない為、今後「王滝ブランド」の周知を図る。	経済産業課
18	安定した特産品の生産を推進し、新たな特産品開発と販路拡大	すんきなど安定した特産品の生産や、新たな商品のPR及び出店販売の支援	D	伝統的な特産品・郷土食のPR等に取り組みつつ、DMOの5年間実施計画の中に、ECサイト構築やお土産等販売促進の事業メニューを盛り込み、新たな特産品開発と販路拡大を目指します。	村おこし推進課
19	村内消費の拡大	村内プレミアム商品券の発行 2,000セット 村外プレミアム商品券の発行 2,000セット 冬季宿泊助成券の発行 3,000セット	B	引き続き、村の経済状況を注視しながら、必要に応じて、プレミアム商品券の発行など、村内消費につながる対策を講じます。	村おこし推進課
20	特産品のブランド化を推進	特産品のブランド化を推進するための情報発信	C	木曾おんたけ観光局などと連携して、すんきや百草丸など既存の特産品のブランド化を推進してまいります。	村おこし推進課
21	既存事業者の資金調達制度の適正運用	村小規模企業振興資金利用者への保証料・利子の補給 県制度資金利用者への保証料・利子の補給	B	産業の振興や既存事業者の支援を目的として資金調達制度の適正な運用を図りました。	村おこし推進課
22	宿泊施設等の世代交代の円滑な推進	観光事務所による状況把握、課題整理など	D	宿泊施設等の世代交代の円滑な推進を支援を推進します。 インターンシップの試行など検討していきます。	村おこし推進課

(順調) A	0	0%
(概ね順調) B	2	9.1%
(努力を要する) C	10	45.5%
(実績なし) D	10	45.5%
合計	22	施策

#### 4【子育て・福祉】子育て環境の整備を促進し子どもの声が響き渡る村をつくります

##### (1) 子育てにやさしい村づくり

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31年度)
ファミリーサポートシステムの構築	目標値							実現
	実績値		—	—	0	60		
	進捗区分			実績値 なし	概ね順調	概ね順調		
	【備考】 ファミリーサポートシステムの構築の状況 [地域での相互扶助による子どもの一時預かりサービスであるファミリーサポートシステムを構築することが目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H28 年度に設立へ向け検討を行ってきたファミリーサポートセンターを立上げ協力会員及び依頼会員の登録を行うことができた。</li> </ul>					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は、会員相互の親睦や信頼関係が築けるよう年1回は交流会を開催していきながら、活動内容について検討し見直しを行っていきます。</li> <li>・両会員が安心して活動や子育てができるように会員を対象に、ファミリーサポート子育てスキルアップ講座などを計画していきます。</li> </ul>						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31年度)
郊外学習塾の開設	目標値	箇所						1
	実績値		—	1	1	1		
	進捗区分			順調	順調	順調		
	【備考】 年度末における村内の郊外学習塾の設置数 [子供たちがその持てる力をより伸ばそうとする意欲を高めることができる施設の設置を目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おうたき寺子屋」の開設</li> <li>・「学校法人信学会」と連携した遠隔教育</li> </ul>					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>信学会と協定を結び同会のバックアップのもと「おうたき寺子屋」を開設することができ、ひとまず目標を達成することができました。</p> <p>今後は、中学生を対象にした信学会コンテンツを活用した授業は、受講者からは好評であったことから、高校生も視野に入れた取組を実施していきます。</p>						

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(1) 子育てにやさしい村づくり

	施策	主な取り組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	子育て家庭への経済的支援体制	子育て家庭への経済的支援体制	B	保育料の無料化、学校給食費の無料化、中学生までの医療費給付など実施。今後も子育て家庭への経済的新体制については必要に応じ見直しを行いながら体制を整備していきます。	福祉健康課
2	子育てサポート、子ども・子育て支援事業	子育て支援講座の開催	B	保育園・未就園児の保護者向けに心理士による子育て講座を開催	福祉健康課
3	地域との連携による子育て支援体制の確立	地域との連携による子育て支援体制の確立	B	平成29年度は、地域との連携の一つとしてファミリーサポートを立ち上げました。今後は、子育て親子と地域住民との世代交流等を計画しながら子育て親子が地域で安心して子育てを行えるような支援体制づくりに取り組んでいきたい。	福祉健康課
4	児童虐待防止に関する人権相談所・心配ごと相談所の利用促進	要保護児童対策協議会の開催	B	村の子育ての課題について関係機関との共有及び連携を図り、一貫した支援が図られるよう今後も引続き継続して取り組みます。	福祉健康課
5	親子支援に関する関係機関の連携体制の整備	親子支援に関する関係機関の連携確保のための会議日程の確保や学校と共催で赤ちゃんふれあい事業の開催。	B	途切れない子育て支援体制構築のために、村内外の関係機関による会議を開催し現状の課題とその対策について協議を実施しました。	福祉健康課
6	未来の寺子屋プロジェクト	王滝寺子屋の開設	B	信学会との協定により開設できた。今後、更なる充実を図りたい。	村おこし推進課
7	特色ある保育所づくり	地域（お年寄りなど）や他園との交流事業	B	王寿会との交流会、デイサービス利用者との交流を実施 三岳保育園との交流事業を実施。今後も継続	教育委員会

(順調) A	0	0%
(概ね順調) B	7	100%
(努力を要する) C	0	0%
(実績なし) D	0	0%
合計	7	施策

(2) 教育環境の充実

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
タブレット端末の整備	目標値	台						1人1台
	実績値		3	3	15	18		
	進捗区分			順調	順調	順調		
<b>【備考】</b> 年度末における中学校でのタブレット端末の整備数 [中学生が各々に自分の課題に応じた学習ができるよう1人1台配置することを目標]	主な施策	・個人学習や調べ学習でのタブレット端末の活用						
	進捗状況の分析及び今後の取組	平成30年度までの購入計画を策定し、タブレット端末の整備に関しては順調に推移し平成29年度中に目標である中学生1人1台の配置が完了。 タブレットを活用した教材研究等にも力を入れて行います。						

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(2) 教育環境の充実

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	情報教育環境の整備	タブレット端末整備やP Cを活用した教育活動	A	事業の継続とともにより効果的なI C T教 育の研究や十分な時間数確保に向けた調整 を行います。	教育委員会
2	児童・生徒数にあった指 導計画の作成	ALT 講師を活用した学習 指導 複式学級解消のための講 師・支援員配置 児童生徒個々に応じた指 導計画の作成	B	学校と地域が連携協働した指導計画作成と 指導体制の継続実施。	教育委員会
3	学校支援ボランティアの 育成	学校と地域が連携した学 習活動の充実化 公民館を核とした学校地 域連携の人材育成	B	より多くの村民が学校運営に参加できるよ うな体制整備。 学校と公民館を核とした共同講座を通じた 人材育成。	教育委員会
4	総合学習を基盤とした地 域に根ざした学習プログ ラム作りの支援	児童生徒個々に応じた学 習支援体制の充実 学校地位連携コーディネ ーターを交えたプログラ ム作成	C	学校支援会議や教育支援会議において一層 の情報交換を綿密に進めて行きます。	教育委員会
5	他校との交流（近隣町村 校、御前崎中学校等）	御前崎中学校との相互交 流事業の継続実施 芸術鑑賞や文化活動など 近隣町村学校との交流	B	御前崎中学校との相互交流の継続実施。 教育委員会及び担当教諭を交えた検討会の 実施。	教育委員会
6	学校修繕計画の実施	中学校棟屋根改修工事 (H29 実施)	B	平成 28 年度より段階的に実施。 平成 30 年度 小学校棟屋根改修工事等	教育委員会
7	小中学校の魅力発信事業	ホームページや広報を通 じた教育活動の発信 公民館と連携した村内外 への活動報告	B	村外の皆さんにも見ていただけるような方 策の検討（学校支援会議等にて） 社会教育大会などでの活動事例報告 （H30.11 長野市にて関東甲信越静社会教 育大会にて実践発表を行う）	教育委員会

(順調)	A	1	14.3%
(概ね順調)	B	5	71.4%
(努力を要する)	C	1	14.3%
(実績なし)	D	0	0%
合計		7	施策



### (3) 高齢者等が安心して過ごせる村

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
医療施設(内科・外科) の維持	目標値	人						維持
	実績値		1	1	1	1		
	進捗区分			順調	順調	順調		
	【備考】 年度末における村診療所の医師 の数 [村診療所の維持を目標]	主な施策	・常勤医師の雇用					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	常勤医師1名を確保できているため、村診療所が維持され、順調に 運営されている。 引き続き常勤医師の確保に努めていきます。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
医療施設(歯科)の維持	目標値	人						維持
	実績値		1	1	1	1		
	進捗区分			順調	順調	順調		
	【備考】 年度末における村歯科診療所の 歯科医師の数 [村歯科診療所の維持を目標]	主な施策	・JAとの歯科医師派遣委託					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	JAと歯科医師の週2日派遣を委託契約していることから、村歯科診 療所が維持され、順調に運営されている。 引き続き、歯科診療所が維持できるよう努めていきます。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
特定健診受診率	目標値	%						60.0
	実績値		36.8	42.1	41.8	41.6		
	進捗区分			順調	順調	順調		
	【備考】 村民の当該年度における特定健 診の受診率 [厚生労働省の特定健康診査等 基本指針における市町村国保の 目標値を目標]	主な施策	・特定健診					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	対象者へ個別に案内を出すなどの取組みにより受診率は順調に推 移しています。 更なる受診率向上に向けて、健診機会の拡充、周知等を検討します。						

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
生活習慣の改善意識	目標値	%						増加
	実績値		65.5%	—	—	63.3%		
	進捗区分			実績値なし	実績値なし	概ね順調		
	【備考】 運動や食生活等の改善をしてみようとおもう人の割合（基準値H26年）	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定検診結果返却会の村内各地での実施</li> <li>・健康づくり教室の実施</li> </ul>					
	進捗状況の分析及び今後の取組	<p>指標の見直しを実施。生活習慣の改善に関する意識・実践状況とした。改善するつもりである、既に改善に取り組んでいる方は、19歳以上の回答した方（445人）のうち63.3%でした。参照：平成27年の結果は回答した386人のうち65.5%特定検診の結果や医療費等の分析により、初期段階で生活習慣の見直しができるように取り組んでいきます。</p>						

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(3) 高齢者が安心して過ごせる村

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取組み	担当課
1	王滝村データヘルス計画、王滝村健康づくり計画に基づく「健（検）診を受ける・体を動かす・健康に食べる」の3つを柱とする健康増進施策の実施	データヘルス計画の策定。生活習慣病・がんの早期発見、早期治療のため、検診（健診）機会の拡大を実施。	B	健診機会の確保の継続。	福祉健康課
2	医師の安定確保	常勤内科医師の確保及び歯科診療業委託により診療所の運営	B	内科医師 1 名。歯科医師の派遣により週 2 日の診療。	福祉健康課
3	往診・在宅医療の遂行	往診用診療車の更新。往診、在宅医療、介護サービスの実施	B	診療所公用車、平成 25 年 10 月購入。希望者への往診、在宅医療の実施。	福祉健康課
4	地域医療機関、保健事業、福祉との連携	後期高齢者検診の委託	B	後期高齢者検診は未実施。他での検診結果により診療相談、加療の継続	福祉健康課
5	医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制（地域包括ケアシステム）の構築	介護予防・日常生活支援総合事業 一元的な体制構築に向けた情報収集・課題整理など	B	「介護予防・日常生活支援総合事業」の充実に図ります。 また、生活支援ネットワーク会議や地域支え合い推進会議などと連携し、情報収集や課題の整理を行い、多様な担い手による多様なサービスを創出できるよう取り組みます。	福祉健康課
6	地域包括支援センターの充実	地域支援活動（運動・認知症予防等の教室）の実施	C	介護や福祉、健康、医療などさまざま分野から総合的に高齢者とその家族を支える機関として地域の窓口となるよう、適切な機関と連携し、必要なサービス等へ繋げられる組織づくりに取り組みます。	福祉健康課
7	高齢者世帯、一人暮らし高齢者が安心して暮らせるための支援対策	地域住民参加による生活支援の新たな体制づくりの基盤となる「生活支援ネットワーク会議」と「地域支え合い推進会議」を設置し、活動が始まった	B	「介護予防・日常生活支援総合事業」の充実に図ります。 また、生活支援ネットワーク会議や地域支え合い推進会議などと連携し、情報収集や課題の整理を行い、多様な担い手による多様なサービスを創出できるよう取り組みます。	福祉健康課
8	認知症になっても安心して暮らすことができるよう、地域支援対策の推進	介護予防・日常生活支援総合事業 地域支援対策の推進に向けた情報収集・課題整理など	B	「介護予防・日常生活支援総合事業」の充実に図ります。 また、生活支援ネットワーク会議や地域支え合い推進会議などと連携し、情報収集や課題の整理を行い、多様な担い手による多様なサービスを創出できるよう取り組みます。	福祉健康課
9	関係機関との連携による支援体制	情報の共有やネットワークづくりを図るため各種担当者会議へ出席	B	木曾障がい者総合支援センター とともにや 各事業所及び近隣町村など関係機関と情報を共有しながら連携して支援が図られるよう取組んでいきます。	福祉健康課
10	地域生活への移行、就労支援	随時関係機関と連携を図りながら必要な支援へ繋げていく	B	木曾障がい者総合支援センター とともにや 各事業所及び近隣町村など関係機関と情報を共有しながら連携して支援が図られるよう取組んでいきます。	福祉健康課

(順調)	A	0	0%
(概ね順調)	B	9	90%
(努力を要する)	C	1	10%
(実績なし)	D	0	0%
合計		10	施策

(4) 生きがいをもって暮らせる村

指 標 名	年度	単位	基準値 (H25年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
何らかの学習活動に従事する割合	目標値	%						43.6
	実績値		28.8	30.9	32.0	33.0		
	進捗区分			概ね順調	概ね順調	努力を要する		
	【備考】 当該年度における公民館活動及び地域づくり実践活動に参加した村民の割合 [当該割合を平成 45 年度までに 100%とする計画に対する平成 31 年度の進捗率を目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館活動及び地域づくり実践活動への参加促進</li> <li>・公民館まつり及び村民運動会等、村民総参画による諸行事の推進</li> <li>・地域間交流事業への参加促進</li> </ul>					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>公民館活動及び地域づくり実践活動に参加した村民の割合は、やや伸び悩み。 より多くの村民に活動への参加を促すため、公民館のみならず関係機関との連携を一層すすめるとともに村民参画による地域づくりに繋がるよう取り組んでいきます。</p>						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H25年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
学びの成果を村づくりに生かす活動に従事する割合	目標値	%						30.1
	実績値		13.4	17.2	20.0	25.0		
	進捗区分			順調	概ね順調	概ね順調		
	【備考】 当該年度における育成活動、スポーツ活動、公民館活動で指導的役割に従事した村民の割合 [当該割合を平成 45 年度までに 60%とする計画に対する平成 31 年度の進捗率を目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後子ども教室推進事業を通じた子どもの活動及び家庭教育支援の推進</li> <li>・スポーツ活動における指導者の育成</li> <li>・公民館活動及び地域活動における実践活動</li> </ul>					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>育成活動、スポーツ活動、公民館活動で指導的役割に従事した村民の割合は、指導者等育成の取組により順調に推移しています。 引き続き、指導者養成などの人材育成に取り組みながら学びの成果を地域の活性化に生かす活動を進めます。</p>						

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(4) 生きがいをもって暮らせる村

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	誰もが参加する各種講座やスポーツ、レクリエーション活動の実施	関係機関や学校と連携したスポーツ活動の実施 定期的なミーティング会議による情報交換	B	村民のニーズに応じたスポーツ活動の一層の充実化を図ります。 (中年層のスポーツ活動に一層視点を置く)	教育委員会
2	コーディネーター、スポーツ推進員等人材の育成	スポーツ推進員の委嘱及びその人材育成	B	平成 29 年度に 5 名のスポーツ推進員を委嘱。小中学生のスポーツ活動を中心に従事。今後は、中年層や高齢者へのスポーツ活動の充実化に向けた検討を行っていきます。	教育委員会
3	社会教育施設等の計画的な修繕	公民館施設（本館・分館）の修繕	B	平成 29 年度洋間、和室のカーテン取替修繕、九蔵集会所施設の修繕実施。 区長、分館長とのアリソグを継続させ、定期的かつ効率的に修繕を行っていきます。	教育委員会
4	公民館交流事業の推進	地域間交流活動による学習活動の拡大	B	引き続き、村外での交流による学習活動を行っていきます。 (参考) H29：飯山市、山形村で合同実施	教育委員会
5	公民館だより等広報の発行	公民館だよりの発行	B	公民館だよりの月 1 回の発行とともに、より身近な情報収集のため分館長・主事との連絡を密にするとともにより多くの村民の皆さんが参画できるような編集委員会を立ち上げる	教育委員会
6	放課後子ども教室推進事業を通じた子どもの活動及び家庭教育支援の充実化	放課後子ども教室事業の継続 子ども育成会と連携した家庭教育支援	B	小学生全児童を対象に実施。放課後の時間を活用した学習や体験、スポーツ活動を実施。村民の皆さんもスタッフとして協力していただきながら事業継続を図ります。 また、子ども育成会と連携し、家庭教育講座を開催し家庭教育の充実化を一層図ります	教育委員会
7	村民参画による運動会、公民館まつりの運営会議の充実化	村民ふれあい運動会、公民館まつり	B	各種団体の皆さん参画による協働にて事業実施。小中学校を含めニーズにあった運動会や公民館まつりのあり方を今後検討していきます。	教育委員会
8	新村誌の編纂	新村誌発刊にむけ、資料収集、整理、編集作業実施	C	平成 29 年に村誌「自然編」を発行。現在、歴史編を編集中。 平成 31 年度までの全巻発刊を目指す	教育委員会
9	御嶽山岳歴史文化会館の充実	教育委員会による管理運営。 月 1 回の郷土食講座の開催による食文化の継承	B	公民館と共催による月 1 回の郷土食講座を実施。今後も内容を検討し実施していきま す。※御嶽山岳歴史文化会館については暫く休館とする	教育委員会
10	活用するための人材育成等体制整備	文化施設の管理運営	B	御嶽歴史文化会館への人員配置（1 名）を行いました。※御嶽山岳歴史文化会館については暫く休館とする	教育委員会
11	郷土食（スンキ、ほう葉巻、万年鮭等）の作り方教室等の開催	月 1 回の郷土食講座の開催による食文化の継承	B	公民館と共催による月 1 回の郷土食講座を実施。今後も内容を検討し実施していきま す。※御嶽山岳歴史文化会館については暫く休館とする	教育委員会
12	森林鉄道の保存、歴史的意義の伝承	森林鉄道の会等と共催で森林鉄道フェスティバル開催（実行委員会）	B	松原スポーツ公園内の周回軌道の敷設を目指しています。現存の車両や軌道の老朽化が著しくなっています。今後どのように整備し活用していく検討が必要。	教育委員会

13	インターネット、広報等での周知	「村誌編纂室だより」月1回発行	B	引き続き「編纂室だより」を発行。公民館との共催講座を取り入れ、一層村民の皆さんへの学習会を通じた周知を図ります。	教育委員会
----	-----------------	-----------------	---	--	-------

(順調)	A	0	0%
(概ね順調)	B	12	92.3%
(努力を要する)	C	1	7.7%
(実績なし)	D	0	0%
合計		13	施策

5 王滝村総合戦略に含まない施策（長期振興計画にのみ記載されている施策）

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	地方債を財源とする事業の必要性の検証	H40 年度までの財政シミュレーションで実質公債費率及び将来負担比率の推計を行っている。	B	木曾広域連合 CATV 光化促進事業や防災行政無線デジタル化整備など必要とされる事業へ交付税措置率の高い起債を利用していきます。	総務課
2	持続可能な定員管理計画の策定	定員管理計画の策定	B	計画に基づいた定員管理を行います。	総務課
3	情報化機器の充実	端末の計画的更新を実施	B	計画に基づき、情報機器の更新を図ります。	総務課
4	定員管理と事務の効率化	定員管理計画の策定	B	計画に基づいた定員管理を行います。	総務課
5	人事評価制度の実施	人事評価制度の導入	B	人事評価の実施を今後も行います。	総務課
6	公会計制度の導入（財務諸表の作成）	平成 27 年度決算から導入済み。平成 28 年度決算で村の会計全てと広域連合などを合わせた連結決算まで作成した。	B	連結決算まで完成したため、導入については平成 29 年度で完了。平成 30 年度以降は、継続して財務諸表の作成を図ります。	総務課
7	行政評価システムの導入	未導入	D	費用対効果の検討が必要。	総務課
8	計画的車両配置整備事業	計画に基づいた公用車の更新	C	計画に基づいた公用車の更新。	総務課

(順調)	A	0	0%
(概ね順調)	B	6	75%
(努力を要する)	C	1	12.5%
(実績なし)	D	1	12.5%
	合計	8	施策